

平成21年度 京都府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
教育活動全体の活性化による水産・海洋の将来のスペシャリストの育成 1 専門学科としての特色を生かした学力の充実・向上及び生徒の希望進路を実現する進路指導の充実 2 生徒の規範意識の醸成等、生徒指導の充実による安心・安全な学校づくり 3 部活動・ボランティア活動等の充実による特別活動の活性化 4 保護者、地域、小・中・高等学校、関係諸機関との連携等、開かれた学校づくりによる教育活動全体の活性化 5 教職員の資質能力の向上	《成果》 1 きめ細かな学習指導や進路指導により、就職希望者では90%、進学希望者では95%の生徒の進路が第一希望で達成された。 2 学力向上フロンティア校並びに各種の推進事業に取り組んだことにより、教育内容の充実が図れ学校が活性化した。また、学力面での成果が得られただけでなく、地域や関係機関との連携も深まり、本校の教育活動を小中学校や地域に発信することができた。 3 一人ひとりを大切にしたり粘り強い生徒指導を継続し、日常のあいさつ・マナー及び授業規律等をレベルの高い状態で維持できた。また、生徒の問題行動も激減した。 4 レスリング部、ボート部、カッター部の全国大会への出場を始めとして、部及び同好会の活動が活発に行われた。 5 ホームページやメール配信による広報活動を充実させ、本校からの情報発信に努め、保護者や外部の方からも評価していただいた。 6 中学校に対する広報活動に力を入れた事により、推薦入試において過去最高の志願者を集めることができた。 7 義務的経費等の執行状況を毎月職員会議で提示し、経費の節減に繋がった。 《課題》 1 経済不況に伴う求人数の減少を考慮し、進路指導の一層の充実を図る。 2 新学習指導要領を見据えて、各学科・コースの教育内容の充実と教科指導力の向上を図るとともに、集中実習の在り方についても検討する。 3 生徒指導については、組織的な指導を一層強化し、規律ある学校生活の維持・継続に努める。 4 生徒募集については、中丹・丹後地区に強く働きかけていくとともに、海洋高校の教育活動を知らせるための広報活動に力を入れる。 5 近年減少傾向にある原留・中退についても、限りなく0に近づけるために、きめ細かで組織的な指導の徹底を図る。 6 生徒の資格取得に関するスケジュール管理に努め、受験前の指導・対策を充実させ合格率のアップを目指す。 7 教職員の指導力向上を図るための分掌・教科による校内研修会は実施できたが、日常的に組織的な動きの中で資質・能力を向上させるための取組が不十分である。	本年度学校経営の重点（短期経営目標） 1 危機管理意識に基づく安心・安全な学校生活の確立 2 学力充実・向上及び希望進路の実現を図る一人ひとりに応じた指導の充実 3 学力向上フロンティア校等、各種推進事業による各学科・コースの教育活動の活性化 4 授業改善等による授業規律の確立 5 生徒指導の一層の充実による問題行動等の防止 6 部活動・生徒会活動・ボランティア活動等の活性化 7 効果的な運営を目指した各分掌間の連携の強化 8 HP等、広報活動の一層の充実 9 教職員の指導力向上を図る研修の充実

〔評価の方法〕 評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

〔成果と課題の記入方法〕 分掌・教科全体で記入。ただし、各分掌・各教科の実情により重点目標ごとに記入してもよい。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教職員の指導力の向上を図るため、分掌・教科の取組を充実する。	① 分掌・教科による各種研修を充実し、組織的な取組を展開するとともに、個々の教職員の指導力の向上を図る。 ② 学校評議員等の外部評価を学校経営に反映させるとともに、教職員の意識改革や授業改善に活用する。	A	B	B	①ほぼ計画どおり研修会を実施し、指導力向上に繋げることができた。 ②保護者のアンケート回収率（52.3%）を上げることが出来た。
	魅力ある学校づくりを展開する。	学力向上フロンティア事業等を活用し、水産教育の在り方を検討するとともに、本校ならではの特色ある学校経営を展開する。	B	B		
総務企画部	教育成果の発信により、広報活動の活性化を図る。	① H Pに携帯向けサイトを充実させるとともに、デザインを一新し、月4回以上更新する。 ② メールによる情報配信の登録者数150人、2回/月以上配信する。 ③ 「海洋だより」等の広報資料を年20回以上発行する。	A	A	C	(更新38回) 海洋だより（栗田地区回覧板）、カレンダー、海洋高校ってすごいなど延べ15回発行。 PTA行事が精選できた。フロンティア事業の成果として、次年度以降、海洋マイスターの取組を更新し、引き継ぐ必要がある。人権アンケートの結果、満足した生徒68%。
	専門教育の充実と研修に努める。	資格取得のスケジュール化を推進し、海洋マイスター等の資格取得総数を前年度比+20%以上、教育長表彰者50人以上を目指す。	—	B	C	
	P T A活動に多くの会員が参加してもらえるように努める。	行事の精選並びに、特色ある取組を検討する。	C	C		
	人権教育の充実を図る。	① 人権について視野を広げ、人間理解を深める。 ② 周りを思いやる心を育てる人権学習を企画する。「よかった」という回答7割以上を目標とする。	—	B		
教務部	学力の向上を図る。	① 評価規準を明確にした年間指導計画・シラバスの作成による生徒の学習意欲の向上を図る。 ② 教科と連携した習熟度別授業の機能的な運用の定着を図る。 ③ 教科・学年部と連携し、生徒の家庭学習の習慣化を図る。	A	B		授業評価満足度 Ave. 第1回3.4→第2回3.4
	原級留置・中途退学の防止を図る。	① 学年部・教科との連携を図り、生徒の状況把握と個に応じた指導を行う。 ② 授業規律の確立を図る。	—	B	B	
	授業改善を推進する。	① 授業公開・研究授業及び校内研修を実施し、教科指導力の向上を図る。 ② 生徒による授業評価を実施し、授業改善に生かす。 ③ シラバス、評価規準の改善を通して評価の改善を図る。	—	B		
生徒指導部	生徒指導を充実する。	服装・頭髪・携帯電話等、公共のマナー向上についての一斉指導及び学年、クラス単位の指導を行う。	A	A		生徒指導面は教職員の目線も上がり、学校全体が落ち着きを見せ始めている。今後は、生徒の自主性を引きだし、日常生活に定着させる努力が必要である。
	生徒会・クラブ活動を充実する。	年間通じて生徒会活動を充実させる。クラブについては競技力向上と加入率向上に努める。	B	B	B	
	ボランティア活動を充実する。	年間通じてボランティア活動を行う。生徒会やボランティアクラブ、寮生と協力して学校外の活動を充実させる。	B	B		

進路指導部	望ましい職業観や進路意識を育成する ① 2年生進路目標の決定70%（2月末） ② 未内定者3名以内 ③ 初年度離職率10%以内	① 進路HR 1年生7回、2年生10回、3年9回 ② 進路指導部の個人面談2・3年全員実施（3年6月2年2月） ③ 卒業生の状況調査（就職2月、進学随時）	A A B	B	B	・学年部の協力により、多くの進路学習に取り組めた ・2年2月実施予定。 ・調査中
	進路先に応じた学力や社会人つなげる。 ① 1次内定率80%以上 ② 外部模試偏差値向上3P以上 ③ 進路意識調査85%以上の満足度	就職補習（SPI）5回と小論文模試2回、面接練習6回 外部模試の実施と分析（1、2年4回、3年2回） 進学補習の実施率95%以上、参加率80%以上	A B B	B		・左記回数を超える実施 ・模試分析を3学期に実施 ・実施率93% 参加率86%
	校内外との連携を強化し、進路指導力の向上を図る。 ① 進路先との信頼関係強化する。 ② 進路研修2回実施する。 ③ 出願時のミス無くす。	求人開拓訪問50社、大学訪問18以上 大学入試内容の共有と個別指導の徹底（週1回以上） 合同部会1年3回2年3回3年4回、補習担当3回	A A B	A		・左記以上の訪問数 ・研修2回 ・継続的個別指導 ・ミス3回以内、合同部会は予定回数未滿
保健部	基本的生活習慣の確立する。	食事、睡眠のリズムを安定させるための指導と、食育、性教育、薬物乱用防止等の保健指導を充実させる。	—	A	B	保健指導はほぼ計画通りに実施
	教育相談体制の強化する。	生徒の状況把握と情報の共有化を図り、個々の課題を組織的に援助、解決する教員体制を充実させる。	—	C		情報の共有化に課題が残る
1 学年部	教員の資質と組織力の向上する。	学年やクラス経営について、各教員が目標を立て、その達成に尽力するとともに、定期的に学年会を実施する。	B	B	B	学年会現在31回実施
	生徒により良い習慣を身に付けさせる。	担任面談等を通じて、生徒の生活指導を行う。また、部活動や補習の参加を促す。学習面では、資格取得を1つの目標として家庭学習の定着を図る。	B	B		面談実施回数3回 クラブの参加率80% 補習の参加率78% 下宿生の特別指導0件
	保護者との連携を密にする。	家庭との連絡を密にとるとともに、学年だよりを通じて情報を発信する。また、PTA行事へ積極的に参加することで保護者との交流を図る。	A	A		家庭との連携におけるトラブル0件 学年便り発行数4回 PTA行事への参加のべ人数8人

2 学年部	人間力の向上をめざす。	① 基礎学力の向上（＋3 P）：外部模試の事前指導と面談を強化する。 ② 修学旅行での人間力育成（課題解決能力・コミュニケーション能力・表現力）：事前及び事後指導を徹底する。 ③ 学習習慣の確立（試験前平均3.5時間）：考査1週間前から学習状況を把握し指導する。	B	C	B	①+1.0P 上昇 基礎力診断テスト+1.2P 府高実力テスト+0.8P ②満足度93% ③1～2学期 平均3.2時間
	実績を獲得する。	① 資格取得の推進（平均取得3個／人）：取得計画を作成させ、資格担当者と連携しながら、確実に取得に結びつける。 ② 部活動の促進（定着率75%）：通年積極的に呼びかけ定着させる。 ③ 欠課時数の半減（当学年前年比）：考査毎に5%超える生徒を把握し指導する。	A	A		①3.6個／人 ②82% ③12人33個（H20:7）人35個
3 学年部	希望進路を実現する。	① 志望理由を早期に確立する。 ② 第一志望合格率の前年並みを維持する。	B	C	B	第1志望合格率は、厳しい社会情勢の中例年並みにならなかったが、就職希望者は全員年度内決定が図られる見込みになった。また、生活指導においては概ね満足しており、早期離職においても少ないのではないかと予想している。
	卒業後の早期離職「0」を目指す。	① 日常的な生活指導を徹底する。 ② 社会状況及び社会システムを生徒自ら把握させるようにする。	C	C		
	2年次までで指導できなかった部分を指導しきる。	① クラスの課題を克服する。 ② 生徒指導を徹底させる。 ③ 改善すべき個人課題を生徒自身が自覚し、改善する。 ④ 学校説明会、会社説明会に全員が早期に参加する。	B	B		
海洋科学科	（1年生）専門学習への動機付けを図る。	① 海洋科学科希望者に対する面談を年2回以上実施する。	—	A	B	2月に2回目実施できてA 関連大の位置付が明確でないが（達成）
	（2年生）専門学習への動機付けを図る。資格取得の増加を図る。	① 専門系施設への訪問・見学等を年8回以上実施する。 ② 漁業検定・食品検定で、全員受検を目指す。	A	A		
	（3年生）大学進学希望生徒の動機付けと希望進路達成を図る。	① 教育長表彰者を80%以上とする。 ② 関連大学合格を50%以上とする。 日本海南部水研出場	—	A		
海洋工学科	（航海船舶コース） 学力向上フロンティア事業に関わる取り組みを発展させる。	① 関係機関（大学・企業）との連携：大学、企業それぞれ1以上と当事業に関わる連携をする。 ② 資格取得の推進：四級海技士以上の合格者数を5名以上出せるよう補習等を充実させる。 ④ 塩の製造販売：年間100個以上を製造・販売する。	C	C	B	①1件（海洋センターのみ） ②8名 四級5名、三級2名、二級1名 ③達成できず。 製造50個、販売35個
	（海洋技術コース） 学力向上フロンティア事業に関連付け、土木施工、作業潜水等に必要とされる知識と技術を習得させる。	① 関連進路先の内容を70%以上実現させる。 ② 潜水士6名、レスキューダイバー10名合格を目指す。 ③ 専門機関との連携により阿蘇海浄化研究を推進する。 ④ 総合実習、ダイビング、課題研究で事故やミスをなくす。	B	A		・来年度はコース関連への進路指導を強化したい。 ・潜水士試験では高い合格率を確保できた。
			A	A		

海洋資源科	(栽培環境コース) 学力向上フロンティア事業 に関連し、トラフグやマアジ 等の養殖魚飼育技術・知識を 習得させる。	① 栽培漁業技術検定の合格率を向上させる(2級80%、1級60%) ② 本校施設を利用しての年間飼育サイクル(飼育限界数等)、 肉質改善技術に見通しをつける。	C B	C	C	資格取得数のべ368個 関連進路14名 (1/15現在)
	(食品経済コースコース) 学力向上フロンティア事業 を発展させ、生徒の知識・技 術を向上させる。	① 資格取得を推進し、社会での即戦力を目指す。 ② 関連進路を紹介し、コースに関連した進路を目指すよう指導 する。	— A B —			
事務部	学習環境の整備と施設・設 備の安全管理の徹底に努め る。	① 来校者には丁寧な対応を心掛けるとともに、不審者の侵入を 阻止するため、その確認及び把握については複数で行う。 ② 学習環境に関わる定期検査(照度測定、騒音測定、空気測定 及び水質検査)については、各分掌と連携を取りながら実施し、 改善箇所の早期発見・早期改修に努める。(年間各項目1回) ③ 施設・設備の安全点検を行い危険及び改善箇所の早期発見・ 早期改修に努める。特に老朽化や塩害等によるトラブルを未然 に防ぐために徹底した点検を行う。(各学期2回)	— — —	B	B	①95%以上達成 ②年間各項目1回実施 ③1学校6回・その他4回 2学期7回 3学期6回 ④12回報告予定、現在3項 目が前年度実績を下回って いる。
	経費の節減に取り組む。	義務的経費等の7項目の支出状況を職員会議で報告し、経費の 節減について、全教職員に協力を依頼する。(毎月1回)	—			
寮務部	規律正しい生活を高め る。	① 反省文を出さないように工夫する。事前の呼びかけなど。 ② 反省文を寮生に書かせる際、形式的に反省文を渡すのではなく、 内面に問題を問いかける指導をする。 ③ 反省文は月10以下を目標とする。	A B C	B	C	放送呼び掛け 15.7枚(月) 100% 生徒指導3件 規律違反13件・頭髮18人
	寮生の問題行動を減らす。	① クラブ加入率、参加率を100%にする。 ② 服装・頭髮指導の違反事象年間5件以下、特別生徒指導の違 反事象を年間5件以下とする。	A D			
実習船 「みずなぎ」	学校目標の安全、安心に追 従し運航できる様に努める。 船舶職員と教員、学校との 連携を深める。	① 長期航海の乗船中は毎日生徒、職員の体調チェックを行う。 ② 長期航海実習は非常退船避難訓練を行う。 ① 教職員と実習前の打合せを行う。 ② 終了後は反省会を行い今後の組み立てを考慮する。	B A A A	A	A	記入漏れが少しある。 素早くできた。 十分な打合せ、反省会がで きて実習組み立てに役立 つ。訓練記録簿を活用し指 導できた。
	実習中、生徒とふれあう機 会を多くする	生徒を各班で指導教育を行う。	A			

研 修 計 画	生徒 指導部	① 制服のTPOについて ② やる気を育てる講演会	① 新入生オリエンテーション合宿で1年生に講演会を行う。 ② 12月初旬に世界レベルの選手を招き、講演会を行う。	A —	A	A	②時期はずれたが大変有意義な研修となった。
	総務 企画部	学力向上フロンティア事業に基づく教師力の向上を目指す。	集中実習のあり方について研修を深めるとともに、教科指導力向上の取組を実施する。	C	C	C	学科部長・コース主任会議の範囲内で検討した。
	教務部	教科指導力の向上と授業改善する。	① 公開授業・研究授業の実施と授業改善に向けて ② 生徒の学習意欲・学力向上に向けた評価の在り方について	—	B	B	研究授業2回実施。初任者研修を通して実施した。
	進路 指導部	進路研修会 第1回「キャリア教育の推進」 第2回「模試の分析方法について」	若者を取り巻く社会情勢の解説と求められる社会人基礎力について研修を深める。 基礎力診断テスト等の分析結果を基に学力向上に結びつける取り組みを検討する。	A B	B	B	研修2回、模試分析会実施
	保健部	課題のある生徒への対応について	生徒状況に応じた対応や指導の方法について研修する。	B	B	B	不安障害について研修した。
	海洋 科学科	学力向上フロンティア事業に基づく教師力の向上を目指す。	研究活動等に結びつく先進地・先進校視察を合計3ヶ所以上実施する。	D	D	D	実施できず（予算措置無）
	海洋 工学科	① 溶接技能研修 ② 救急法研修	① 造船会社の見学・研修を通じて、安全確保や技能向上に関する研鑽を深める。 ② 日本赤十字社救急法救助員講習を受講し、最新の救急処置法を習得する。	C	C	C	技術コース全教員対象では実施できず。
	海洋 資源科	栽培漁業実習棟施設研修会	① 栽培漁業実習棟の維持管理について、誰もが管理できるよう研修を深める。	D	D	D	実施できず。